

10. 異端的宗教活動と近世秩序(3) —潜伏キリシタン存続の内在的条件—

2025. 6.19. 大橋 幸泰

はじめに

遠藤周作原作・マーティン=スコセッシ監督の映画『沈黙—サイレンス—』（日本公開 2017 年 1 月）

→ 17 世紀前期、徳川幕府によるキリシタン禁制政策の理不尽さを描くことにより、宗教とは何かを問う

* 完成度の高い内容 / しかし、このイメージでは、キリシタンのすべてを理解したとはいえない

→ 二分法的理解でよいか

* 弾圧に最後まで屈せず殉教する「強い」キリシタン / 弾圧に容易に屈して棄教する「弱い」キリシタン

潜伏キリシタンはなぜ幕末まで潜伏が可能であったか

→ 大橋の研究方法

a. 潜伏キリシタンを取り巻く外在的条件の検討 / 異端的宗教活動という枠組み

b. 潜伏キリシタンの内在的条件の検討 / 属性論という認識方法

→ 本日は、おもに b を検討

キリシタンという属性だけに注目しては、キリシタンが幕末まで生き延びた理由は解けない

* 一人の人物も一つの集団も、一つの属性だけで完結していないことを意識する歴史を見る方法

→ 宗教的属性(キリシタン・非キリシタン)や世俗的属性(村民・生業・百姓・被差別民など)が、重層的に存立

* キリシタン単独で村社会は成立しない

1. 墓地における諸墓石の混在

浦上一番崩れ / 長崎奉行、長崎とその周辺の寺院へ変形墓石の存在を調査(史料 1)

→ 仏教式墓石と野石式墓石の混在 / 一部寺院の僧侶、すでに認識(史料 2)

→ 三番崩れ(1856)では、野石式墓石を「異宗」関係者のものと断定(史料 3)

野石式墓石についての見解

a. 寺院 : 「貧賤」「貧窮」「下賤」の者が建立(史料 4・5) / 「宗法」に差し支えなし(史料 6)

b. 村民 : 被葬者が確定できるものと不明のもの / 本人生前に建立の場合あり / いずれも詳細不明と応答 / 親族のものでなくても、「盆祭」を執行(史料 7)

→ 寺院も村民も、仏教式墓石と野石式墓石の混在を当然視

2. 村社会における諸属性の混在

(1) 潜伏キリシタン自身の諸属性の混在

キリシタン / 潜伏活動のキリシタンのほか、檀那寺・鎮守の活動にも参加

出島のオランダ人の食用肉(豚・野羊)提供をめぐる対応 / 浦上村山里百姓による食用肉提供の規制を求める

* 長崎代官高木作右衛門宛、浦上村山里百姓惣代・乙名・散使・庄屋など、村役人連名の伺書 / 天保 14 年(1843) 3 月付(史料 8)、慶応元年(1865)閏 5 月付

→ 浦上村山里百姓 / キリシタンという宗教的属性よりも、村民という世俗的属性を優先する場合もある

(2) キリシタン・非キリシタンの諸属性の混在

四番崩れ(1867)におけるキリシタン捕縛／馬込郷内の皮屋町に居住する被差別民が、浦上村民(キリシタン)の召し捕りを命じられる／両者の対立が表面化(史料 9)

* 両者の対立関係、それ以前にもあったかどうかは疑問

一番崩れ直後の牛屠畜一件(1795)／浦上村中野郷の百姓徳松、黒牛 1 疋を購入／間もなく死亡したので解体し、皮を皮屋町の利八へ売り払う／牛の解体、「異宗祭事」のためではないと証言／「異宗」に関係あるかどうか、長崎奉行所から問われる(史料 10)

* 皮屋町の利八／「異宗」に関係しているかどうか、浦上村百姓徳松を責めた形跡はない

江戸時代を通じて、浦上村民と皮屋町被差別民は、むしろ共存関係にあったのではないか

* 宗教的属性・世俗的属性を問わず、諸属性は重層的に存立／近世的共存関係

→しかし、秩序の変化(その兆しを含む)が起こった際、特定の属性が顕在化

3. 近世的共存関係の条件

a. 外在的属性の重視

信徒の存在が把握されつつも、宗門改で証明される檀那寺という外在的属性が重視され、内在的属性には踏み込まれない(史料 11)／18C 末～19C 中、断続的に起きた「崩れ」では、「異宗」「異法」と表記

* 「異宗」「異法」／「切支丹」とは異なるが、警戒すべき宗教活動、の意／現実の潜伏キリシタンを含めて、怪しげな宗教活動全般を意味

→近世後期における「崩れ」では、浦上四番崩れ(1867)を除いて、潜伏キリシタンは「切支丹」として摘発されなかった／正確に言えば、三番崩れ以前は潜伏キリシタン発覚事件ではない

b. 排除対象の共有

同時代人共通の歴史意識に基づく、共通の排除対象の存在／「切支丹」

* 背景に島原天草一揆の強烈な記憶／「切支丹」でない(せいぜい異端的宗教活動)と判断されれば許容

c. 「正」の曖昧性

江戸時代、宗教的「正」は曖昧／「国教」は存在しない

おわりに

宗教的属性・世俗的属性を問わず、近世人の諸属性は重層的／近世的「邪正」観のもと、表向き共存状態

* 「正」の曖昧性／重層的な諸属性の中から、共通の属性を優先した結果、近世的共存関係が実現

【参考文献】

大橋幸泰『近世潜伏宗教論—キリシタンと隠し念仏』(校倉書房、2017年)

大橋幸泰『近世日本邪正論—江戸時代の秩序維持とキリシタン・隠れ／隠し念仏』(勉誠社、2024年)

【付記】

・明日までに、Hoppiiieにて講義記録の提出を求める。

・小レポート提出期限 2025年7月9日：小レポートを提出した者が試験(7月17日)の受験資格を有する。